

# COUNTRY RISK WEEKLY BULLETIN

27 May, 2009

## IN THE HEADLINES



アルゼンチン

中間議会選挙を6月28日に控え、フェルナンデス・デ・キルチナ大統領は自分自身への支持も農民との争議や急激に悪化する経済によって打撃を受けている中、大きな減点を被らないように必死である。GDP成長率は3月にはまだプラスであったが、前年比+2.3%に過ぎない。現政権のチャンスを上向きさせるため、前大統領(現キルチナ大統領に影響力を持つ夫)は、有権者の支持を集めるためブエノスアイレス州の上院の候補者として名乗り出た。また、知名度の高い人物を候補者リストに載せる案も出てきている(彼らが当選した際には下院の議席は有しないことになる)。しかし、現政権は議席を失い、経済は更に悪化することが見込まれよう。



マラウイ

2大野党である統一民主戦線(UDF)とマラウイ会議党(MCP)は共闘して5月19日の大統領選においてテンボ候補を支持した。しかしながら、この策略も民主進歩党(DPP)のムタリカ氏を降板させることはできなかった。実に、DPPは、続く立法府の選挙に対しても強い権限を持ちうるようになった。これは政策実施を早めることになるだろう。ムタリカ大統領の人氣は、良好な天候と同時期に実施された農業肥料への補助金が農業生産量を増大させ、GDP全般を引き上げたことに根ざすものである。ウラン生産も本格稼働しつつある中、2009年のGDP成長率は5-7%となるだろう。



レバノン

ヒズボラが支持を固めると見られている6月7日予定の総選挙の結果を、国際社会は注目して待っている。サービスの提供においては実績を上げているヒズボラは確かに支持を集めるだろうが、過半数の議席を得ることはないだろう。というのは、国会は宗派により議席配分されており、連立を設けることによって統治を担保することになっているからである。ヒズボラとその同盟相手(キリスト教派閥とシーア派のアマル派閥)が連立して多数工作をすれば、スンニ派と党未来運動とキリスト教 Druze 派閥を政府に含むことになるかもしれない。しかし、緊張は高く、宗派間での暴動も起きる可能性がある。



ガボン

オマール・ボンゴ大統領-サブサハラアフリカにおいて最も長期にわたって就任している元首は、スペインで病気の治療を行っているといわれている。今月初め、ボンゴ大統領は国家元首のいくつかの機能を譲り渡した。大統領就任期間が前例のないものなので、健康不安説は後任への関心をおのずと高めている。大統領の息子、アリ・ボンゴ氏は国防大臣であり、娘、パスカリンも内閣のメンバーである。よって、トーゴを初め、他のアフリカ大陸の諸国がそうであるように、(ボンゴ)王朝が築かれることになるかもしれない。しかし、この原油主体の経済が今年は停滞し、社会的な不満が顕著になると思われる中、政治の先行きは不透明である。

## ALSO IMPORTANT...



メキシコ

第1四半期の実質GDPは前年同期比8.2%の縮小と予想を上回って悪化した。これは新型インフルエンザの影響が出る前のもので、同影響は第2四半期のデータに反映されるだろうが、観光業に与える影響はさらに長引くかもしれない。輸出の80%以上の仕向け先が米国である中、経済の回復の見通しは国境の北側の工業生産量に深く結びついている。よって、今年下期にはいくらかの回復はあると思われるが、2009年のGDPについては恐らく5%程度は縮小すると見込まれる(財務大臣は現時点ではマイナス5.5%となる見通しだとしている模様)。インフレについては5月の前半には下落し続けているため、更なる金利引下げが可能となっており、最近の会議において中央銀行は更に銀行の金利を75bps引き下げた。



タイ

不景気は第1四半期に深化し、世界の景気低迷の直撃により、実質GDPは7.1%縮小した。純輸出はプラスだったが、これは輸入が輸出よりも大きく落ち込んだことを反映したに過ぎず、民間セクター投資は16%落ち込み、民間消費も1999年以来、初めて縮小した。政治の機能不全も経済活動の足を引っ張っており、早期に事態が改善する見通しは小さく、財政刺激の効果についても限定的なものとしている。しかし、金利については、急激に下落したこともあり、現時点ではその水準は維持されているが、中央銀行は見解を変更する可能性もある。2009年においてはGDPが3%程度縮小することが見込まれよう。

## COUNTRY REVIEW SUMMARIES



台湾

中国国民党(KMT-中国本土との統一に基本的に賛成の立場)は、馬大統領が2008年3月の選挙の勝利によって強い権限を得ており、議会において十分な過半数を保持している。この結果として、中台政治問題は改善しているとはいえ、依然として非常にセンシティブな問題ではある。輸出依存の経済は世界的な景気後退の影響を強く受けており、2009年第1四半期にはGDPは前年比で10.2%縮小している(これは1952年に統計を取り始めて以来のもっとも急激な落ち込みである)。2009年全般においては5.5%の縮小があるだろう。財政刺激策は財政赤字を拡大させるだろうが、もともとの公的および対外債務の水準は低い。金利は急激に引き下げられ、消費者物価も2009年には急激に落ち込む可能性もある。対外流動性の規模も十分にある。



アフガニスタン

4月の大統領に対する世論調査はカルザイ氏に対して更に5年の在籍期間を与えたが、カブールの外側のアフガニスタンは主として部族の首長、將軍と反乱者によって支配されている。治安状態は悪く、武装勢力が米国主導の外国軍と政府軍両方を狙ってきている。表向きの経済は農業に強く依存しており(GDPの40%)、依然として海外援助に依存している状態である。更なる課題としては貧しいインフラ、高い貧困、未開発の金融システム、限定的な事務(政策)実施能力と弱い民間セクター事業環境に加え、麻薬が蔓延している経済が上げられる。

## IN BRIEF

モンゴル  
南アフリカ

モンゴル: 5月24日、民主党の候補者のエルベグドルジ氏(元首相)が現職大統領に勝利した。  
南アフリカ: 2009年第1四半期のGDPは、2008年第4四半期に-1.8%となった後、同四半期比6.4%縮小した。

Edited by Andrew Atkinson

The content of the report (which is subject to change without notice) reflects only our opinion, which is based on information received by us. Accordingly no warranty, representation or other assurance is given as to the accuracy or completeness of the report. The report is for general information and is not intended to address any requirements you may have, for which you must obtain independent advice. The report does not constitute any form of advice, recommendation or arrangement by Euler Hermes UK plc or by the Euler Hermes Group of Companies and must not be relied upon in the making of any decision, agreement or arrangement. © Euler Hermes UK plc 2008.